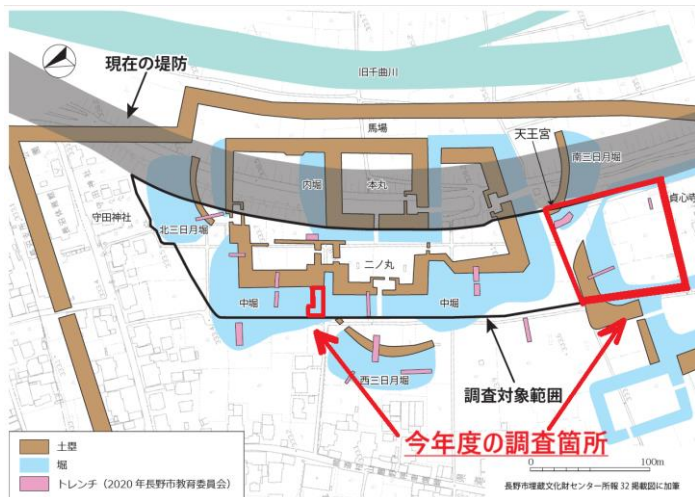


長沼城跡の発掘調査が終盤となっています



長沼城跡は16～17世紀に、千曲川左岸の平地に築かれた南北約650m、東西約500mという大規模な平城です。2021年から発掘調査がおこなわれ、今年の10月に調査が終了する予定です。

昨年までの調査では、戦国時代から近世初期の礎石建物跡や堀跡、土塁などの遺構が確認されています。そして同時期の土器や陶磁器、鉄砲玉などの遺物も出土しています。



長沼城跡縄張り想定図
(長野市埋蔵文化財センター所報32に加筆)

《今年度の調査》

中堀に伴うと思われる石列が出土しており、約40cmの大きな石を支えるように裏込めとして小石が敷き詰められている箇所が見つっています。中堀の杭列は土塁が崩れないように施された土留めと考えています。

昨年までの調査においても石列、杭列が見つっています。これらの成果をもとに城郭の構造をあきらかにしていきたいです。



令和6年度調査区空撮（北から撮影）



一定間隔で打ち込まれた杭列

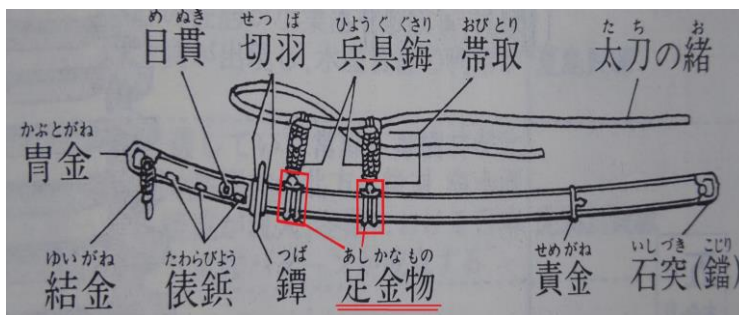
遺物としては、戦国時代から近世初めのカワラケ、灯明皿、内耳鍋などの土器や陶磁器類が多数出土しています。また、太刀の鞘の一部である足金物も出土しました。

《注目！足金物とは》

太刀を腰から吊るす際の固定金具として使われていました。
太刀1振に2つあります！



足金物の出土状況



太刀の部分名称
出典『角川日本史辞典』1996 一部改変

足金物の出土例

県内の遺跡からの出土例は少なく、中世、戦国時代の遺跡から出土した類例は、御代田町の前藤部遺跡で1点、佐久市の北山寺遺跡で3点の出土などが確認されています。

右の図は、佐久市の北山寺遺跡で出土した足金物です。長沼城跡から出土した足金物に似ています。



佐久市北山寺遺跡出土足金物・
長野県立歴史館収蔵
出典『長野県埋蔵文化財センター発掘報告書12』1991

《今後の調査について》

現在、長沼城の南三日月堀と、その南にあった武家屋敷跡を調査中です。南三日月堀の一部と武家屋敷跡をとり囲む土塁、堀を確認しています。

武家屋敷跡の中から、円形の穴が数多く見つかっています。これらが武家屋敷の柱の跡なのかを判断していく予定です。

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
電話：026-293-5926
担当：伊藤、広田、中野、藤原、依田
メール：maibun@naganobunka.or.jp
HP：<https://naganomaibun.or.jp>